

学体連会報

発 行 所

発行日・昭和55年2月25日
東京都渋谷区代々木神園3番1号
オリンピック記念青少年総合センター内
財団法人日本学校体育研究連合会
編集責任者 理事長 重田 一

心

会 長 大 石 三 四 郎

心身と書くのか，身心と書くのか，いろいろと人によって考え方が違うようだ。心身関連の問題というだけで，大学の一つの特殊講義の題目にもなっている。また，人類発生以来今後とも身心の問題は永遠の問題としてあつかつて行くであろう。

身体の訓練を主要な研究対象としている本連合会は，果して身体だけを問題にしているのでしょうか。否，精神の訓練といつて，心の側面を身体と表裏の関係において重要視しているのである。しかし，われわれは心の側面を最近忘れていたのではないかという感じもしないではない。なにかという腹をたてたり，すてばちになったり，苦しいことにぶつつかると逃げ出すような生徒が多くなったと思うがどうであろうか。子供が自殺するというのは一体どう解すべきであろうか。ここで懸命に考えてみたい。

(筑波大学名誉教授・国立特殊教育総合研究所長)

第18回全国学校体育研究大会

重 田 一

昭和54年11月21日、22日、第18回全国学校体育研究大会が、東京都杉並区にある立正佼成会「普門館」を中心会場として開催された。参加者は、幼稚園、小・中・高等学校、養護学校、2300名に及ぶ。たまたま関東地区高等学校健体育研究大会も、関東ブロック中学校体育連盟の研究大会も東京で開催することに決定していたので、精力の分散を避けて全国大会一本で実施するよう努力した結果、高校部会は関東大会を全国大会に含めて実施をしたが、中学校部会は関東大会を10月に別に実施した。このような関係から、日本学校体育研究連合会、文部省、東京都教育委員会、東京都学校体育研究連合会も主催の仲間に入ったのである。

東京都は昭和50年度、第14回大会を引き受け、さらに第18回もという次第で、まことにご苦勞の多かったことと存じ、心から感謝と敬意を表する次第である。これも「欠番」にしたくない気持ちから、東京都の関係各方面をお願いをして、お引き受け下さった結果なのである。

学校体育は、心身ともに健康でたくましい国民を育成する上に重要な役割を担うもの、特にわが国の現状から、児童生徒の「心身の健康をめざして」を主題として、学校体育指導上の諸問題を、とりわけ学習指導要領にかかわる問題点を研究協議し、指導者の資質向上を意図したのである。

第1日目は開会式に続いて、全国保健体育優良校107校、全国保健体育功労者108名の表彰式。優良校を代表して、群馬県藤岡市立平井小学校長佐藤兵弥(代理・教頭新井恒雄)、功労者を代表して、福岡県福岡市立城南中学校長和田喜久蔵が、(財)日本学校体育研究連合会会長大石三四郎より表彰状を受け、東京都立南多摩高等学校元教諭藤野桜子が、被表彰者を代表して謝辞を述べた。

このあと次のように展開された。

◇ 講 話

講 師 文 部 省 体 育 局 長 柳 川 覚 治

◇ 講 演

演 題 「子どもの発達と学校教育」

講 師 東 京 女 子 体 育 大 学 長 鈴 木 清

◇ シンポジウム

テーマ 学校体育の課題……強健な心身を育てるために

講 師 筑 波 大 学 教 授 山 川 岩 之 助
 (財)スポーツクラブ協会常務理事 小 野 清 子
 全 国 P T A 協 議 会 会 長 竹 田 定 雄
 東 京 都 小 学 校 体 育 研 究 会 会 長 沼 館 定 康
 東 海 大 学 教 授 ・ 体 育 学 部 長 笠 井 忠 雄
 司 会 日 本 学 校 体 育 研 究 連 合 会 理 事 長 重 田 一

第 2 日 分 科 会

幼稚園部会

| 領域 番号 | 分 科 会 | 講 師 | 会 場 |
|----------|---------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 1 | 幼 児 体 育 | 茨城県教育委員会指導主事 松丸 令子 筑波大学教授 松田 岩男 | 江東区立すみれ幼稚園 江東区南砂 2-3-5 649-7311 |

小学校部会

| | | | |
|---|-------------------------|--|---|
| 2 | 基本の運動・器械運動 (鉄棒) | 筑波大学教授 大木昭一郎 東京学芸大学助教授 長沢 靖夫 | 新宿区立淀橋第3小学校 新宿区西新宿 6-12-30 342-7841 ~ 2 |
| 3 | 基本の運動・体 操 | 筑波大学教授 山川岩之助 東京女子体育大学教授 遠山喜一郎 | 足立区立弘道第1小学校 足立区弘道 1-20-8 889-4437 ~ 8 |
| 4 | 基本の運動・器械運動 (とび箱・マット) | 文部省体育局体育課教科調査官 佐藤 良男 横浜国立大学教授 高田 典衛 | 港区立桜川小学校 港区新橋 6-19-5 431-2766 |
| 5 | ゲーム・ボール運動・ 陸上運動 | 江戸川区教育委員会指導主事 岩永 務 東京学芸大学教授 関 四郎 元東京都小学校体育研究会会長 三浦 勇 | 渋谷区立中幡小学校 渋谷区幡ヶ谷 3-49-1 376-1371 ~ 2 |

中学校部会

| | | | |
|----|-----------------|----------------------|---------------------------------------|
| 6 | 個人的スポーツ(器械運動) | 筑波大学教授 中島 光広 | 日本体育大学 世田谷区深沢 7-1-1 703-0441 |
| 7 | 個人的スポーツ(陸上競技) | 日本体育大学教授 中山 隆治 | |
| 8 | 集団的スポーツ(バレーボール) | 日本体育大学教授 中田 茂 | |
| 9 | 個人的スポーツ(水泳) | 日本女子体育大学教授 梅田利兵衛 | 日本女子体育大学 世田谷区北鳥山 8-7-1 300-2251 |
| 10 | ダンス | 日本女子体育大学教授 古江 綾子 | |
| 11 | クラブ(部)活動 | 東京女子体育大学教授 高島 稔 | |
| 12 | 体 操 | 国士館大学助教授 中原 凱文 | 国士館大学 世田谷区世田谷 4-28-1 422-5341 |
| 13 | 格 技(剣道) | 国士館大学教授 望月 健一 | |
| 14 | 知 識・保 健 | 新宿区立西戸山中学校長 田能村祐麒 | |

中学校部会の午後は、それぞれの大学学生の演技を見学しました。

学 体 連 会 報

高等学校部会

| 領域 番号 | 分 科 会 | 講 師 | 会 場 |
|----------------|---|---|--|
| 15 | <保健> 保健年間指導計画 保 健 (群馬) 性 教 育 | 文部省体育局学校保健課教科調査官 国崎 弘 | 第1会場 オリンピック記念青少年 総合センター〔研修館〕 渋谷区代々木神園町3-1 467-7201 |
| 16 | <体育的活動> 柔道部実態調査(千葉) スキー教室指導者養成 合 宿 指 導 | 文部省体育局体育課教科調査官 泉田 重明 | 第2会場 " |
| 17 | <体育指導(1)> 体育年間指導計画 体育施設・設備 正課における女子柔道 体力づくり(栃木) 体力低下の要因と対策 | お茶の水女子大学教授 梅本 二郎 | 第3会場 " |
| 18 | 集団的スポーツ (バレーボール)(茨城) " (神奈川) 個人的スポーツ (水泳の評価)(埼玉・東京) 集団的スポーツ (バスケットボール)(山梨) 定時制の保健体育 ダンスにおける動きを ひき出すための指導 | 東京女子体育大学教授 豊田 直平 日本女子体育大学教授 金井英三枝 | 第4会場 " |
| シン ポジ ウム | 新しい学習指導要領と 今後の高校体育 | お茶の水女子大学教授 梅本 二郎 新宿区立西戸山中学校 田能村祐麿 東京都高等学校保健体育研究会 副会長 永田 生江 東京都立深川高等学校教諭 待井四来男 (司会) 東京都高等学校保健体育研究会 副会長 入倉 富夫 | オリンピック記念 青少年総合センター 〔第1号館〕 |

養護学校部会

| | | | |
|----|---|-------------------------|--------------------------------------|
| 19 | <心障体育> 体育指導の実践事例 水泳指導 水遊びからクロールまで 全体体育の実践 | 東京学芸大学付属養護学校教諭 植野善太郎 | 都立中野養護学校 中野区南台3-46-20 384-7743 |
|----|---|-------------------------|--------------------------------------|

〔公開授業校〕 公開授業は、幼稚園及び小学校の各会場で行いました。

開 会 式 挨拶

第18回全国学校体育研究大会長
第7回関東地区高等学校保健体育研究大会会長 大石 三四郎

本日ここに、第18回全国学校体育研究大会を開催するに当たり、文部省、東京都、また全国各地からご賛同をえて参会いただきまして、有難うございます。

本大会につきましては、東京都のご尽力をえまして、殊に高等学校保健体育研究会の人々に事務的代行、肩がわりしていただきまして開くことができました感謝いたします、

研究大会の趣旨は日頃皆様が各学校その他でおやりになっております成果を発表していただき、その内容についてまた我々がみずから反省し、また来るべき我々の体育活動に色々参考になることを得ようとするわけでございます。えてして体育の研究に当りまして、生理あるいは心理学とか、他の学問のまねごとをするような傾向が多いのでございますけれども、本大会の研究内容をごらんいただくと分りますように、体育そのものの活動、現場のなかから理論構成し研究しようという雰囲気十分に得られると思います。

ご参会の皆様、明日の各研究授業その他で、色々日頃ご研修になっていることをぶちまけて相互の成果をあげることを期待しております。簡単でございますがご挨拶にかえます。

(財団法人 日本学校体育研究連合会会長)

文 部 大 臣 あ い さ つ

本日ここに第18回全国学校体育研究大会が開催されるに当たり一言ごあいさつを申し上げます。

社会環境生活環境の急速な変化に伴い、青少年の体格は向上したが、背筋力柔軟性等の基礎体力は低下する傾向がみられるという問題が指摘されている今日、心身ともに健康でたくましい青少年の育成を図ることはますます重要な国民的課題となっております。21世紀の我が国を担う青少年の基礎体力の向上を図ることは、教育関係者にとっても極めて重要な課題であり、その中心的な役割を担う学校における体育指導の充実が強く望まれております。そのため文部省においては、この度の学習指導要領の改訂に当たっては、体育を重視するとともに学校体育指導者の資質向上のための講習会を開催、体力づくり推進校の指定などの施策を推進しているところであります。

このようなときに当たり、本大会が各種体育実技の指導方法の研究発表及び研究協議並びに公開授業の実施等を通じ、学校体育指導者の資質の向上を図ることを目的として、年を追うごとに内容の充実したものになってきておりますことは誠に心強い限りであります。

今後更に社会が大きく変化し、教員の専門職としての力量が問われる時をむかえ、教員の資質向上は教員自ら自発的に行う研さんに期待するところが極めて大きいことにかんがみ、本大会が学校体育の充実向上に一層貢献することを心より期待しています。

本日、ここにお集りの皆様方の学校体育指導に対する日頃の御努力に対し、この場をお借りして深く感謝申し上げますとともに、本大会の成果を十分に生かし、今後ますます学校体育の発展のために御活躍されますことを願ってやみません。

終わりに本大会の開催に御尽力された関係各位に深く敬意を表するとともに、本大会の成功を祈念してごあいさつといたします。

昭和54年11月21日

文部大臣 谷 垣 専 一

あ い さ つ

東京都実行委員会会長 児 玉 工
東京都教育委員会教育長

全国各地から多くの体育指導者をお迎えして、第18回全国学校体育研究大会兼第7回関東地区高等学校保健体育研究大会を、東京都において盛大に開催できますことを心からおよこび申しあげると共に、遠路参加されました皆様に対しまして心からご歓迎申しあげます。

ご承知の通り、我が国の教育は、来年度から大きく変わろうとしております。その目指すところは、知育・徳育・体育の調和のとれた人間性豊かな児童・生徒を育てることにあります。そのためには、すべての活動の基礎となる心身ともに健全な児童・生徒を育てることが大切であります。本大会の主題である「心身の健康をめざして」もまたそこにあると思います。

東京都教育委員会におきましても、新しい学習指導要領の趣旨と、東京都の児童・生徒の実態をふまえて「心と体の健康づくり」を最重点目標の一つにかかげ、学校の教育計画に明確に位置づけ、教育活動全体を通じてその推進に努力しております。こうした時に、全国各地からその道の専門の諸先生方が一堂に集い、研究発表やシンポジウムを通してこれからの体育指導の在り方を求めて、本大会が開催されますことは誠に意義深いものがあります。どうか、ご参会の皆様の活発なご協議により本大会が実り多いものとなり、その成果が、全国の学校体育の向上と充実に寄与することができるよう心からご期待いたします。

おわりに、本大会開催にあたりまして、多大のご協力をいただきました関係各位に対しまして、心から感謝申し上げますとともに、本大会の成功を祈念いたしまして、ごあいさつといたします。

表彰式における挨拶

日本学校体育研究連会会長 大 石 三四郎

おめでとうございます。ご挨拶に代りまして、日頃考えておりますことを申し上げて、ご挨拶に代えさせていただきます。

この学校関係の研究と実践の取扱いにつきまして、まだまだ日本の研究というものが、それに伴っておりません。私も今国立の特殊教育総合研究所の所長をしておりますが、ここに久里浜学校というのがございますが、その先生方にも研究者総覧を作るから、是非ひとつそのなかに入って下さいとお願い申しますと、校長先生が来まして、私達は研究者名簿に入れるだけのことはありませんと辞退されます。非常に残念に思いますが、説得する時機もまだ早いと思って、私そのままさがりました。

ご存知の通り、私は前に筑波大学の副学長をしておりましたが、筑波大学には特別修士という修士号を出すコースがございます。特別修士というものを作ったのは、各学校現場で実践なされている方がもう一度、高度の職業教育に関係したご研究をしていただくために、現職のまま入っていただくために作ったんです。ですから、経営政策科というのがございますが、これは本庁その他一流企業の方々に、専門職に将来就かれるであろうと予想される方、公務員でいいますと上級職の試験を通りまして、本庁関係のあるおつとめをなさった方々に、もう一度来ていただいて、勉強して貰おうというわけでございます。これは、人事院からも色々お世話いただきまして何名か参っております。

ところが、特別修士をつくりました体育の方々は、未だに1人か2人各県からおいででございますが、こういうことの趣旨がよく徹底していないと思うのでございます。そういうのは、こうやって長年の間、研究のために実践され、研究の成果を挙げておりながら、それに研究の称号を与えられないというのは、非常に私としては残念だと思います。将来は各都道府県の委員会のご援助をえまして、筑波大学にもそういう方々を沢山送っていただきたいと思っております。文部省はそういうところを、よくご承知だと思います。上越の教育大学、兵庫の教育大学、九州教育大学を作った、その趣旨は、教育実践の場における研究者を、高度の職業教育として修士号を与えるという趣旨でございます。それでは、ドクターを出さないのかというと、そうではございません。私がか関係しておりました筑波大学におきましても、特別修士の上に博士号をおく3年課程をおこうという努力をしております。絶えず各方面から、その方が本もののドクターコースであるぞというふうにご支持をいただいております。

ります。ご承知の通り、大学の組織も純研究の組織から、職業教育というものを含めるように、筑波大学では、体育芸術、医学というものは、完全に職業コースとしてのプロフェッショナルスクールとして組立てられております。そのように、我々の関係しております体育につきましても、時代の変化を十分に感じて、我々がその面で皆様の行く先が安全に、しかもそれに応じた勲功が与えられるように、少なくとも学位制度のなかに作って行きたいと私達は思って作ったのであります。その点連合会といたしましても、各県の体育関係の課長さん、教育長にお願いしまして、色々そういう面に現職のまま派遣していただくようお願いするつもりであります。そういうことはどうということかと申しますと、大学の教授審査におきまして、今までですと、個人のペーパーがないと教授にしない、助教授にしないという一つの今までのしきたりがございます。これはある意味で、伝統のある学問の世界ではそうでしょう。で一人一人の業績を問題にする時はそうだと思いますけれども、体育のようなもの、あるいは絵画、芸術関係、医学あるいは法律でいうと辯護士とか検事とか判事とかそういう職業教育に関係した方々は、教育実践あるいは現場で実現されたことをすぐ審査に応じて教授にするというしきたりを作らなければいけないと思っております。現に私は筑波大学においてそういうことを実践いたしました。ですから各県の指導主事をなさった方が、その地方の教育学部の教授になっております。そういう審査方法をやはり拓くべきだと思います。筑波に卒先して、文部省の体育者の方でも、教育実践なさっている方は十分、教授審査で通るように努力いたします。これは嘘でも何でもありません。文部省の人事について色々私がめんどろを見ていたというような、そういうことではございません。正当な主張をして、れっきとした教授としてお迎えできる方法をとったわけでございます。その辺、我々がやっている現場と研究との関係というものは、まだまだ大学関係者、研究所関係の者は頭が改造されておられません。それにつきまして、やはり皆様の、こういう大会を通じまして、逐次一般の啓蒙運動をおこしていただけたらと思います。昨日も文部省直轄の研究所長会議がございまして、色々共同研究の時代に入りましたので、共同研究の評価はどうかということをお願いすると、統計研究所の所長がもうできないと断定してしまうわけでありまして、できないわけではないわけでございます。共同研究の形態にいたしましても、何か今までの学問をしている人は一つの型を作ってしまうとするわけでありまして。私はスポーツの例で、柔道の個人戦、団体戦のやり方、そういうものの取扱い、サッカー、ラグビーそれぞれの共同でやる一つの目標をもったチームゲームというものはどういうものかというのと同じように、一つにかためるべきものではない。色々な方法があっていいのではないかと申上げて来たわけでありまして、そのようにまだ研究と実践との融合、その処置ということが大学あるいは研究所、あるいは一般の学校関係で完全な所で認識されておらないと思います。こい願わくば、ここに今日個人表彰を受けられた方々は、学位、博士号をもってそれに報いるような形を工夫し、あるいは我々がするように努力をする形を作っていくべきだと私は信じております。

微力でありますけれども、何とかしてそういう形を一日も早く作りたいたいと思っております。簡単でございますが、ご挨拶にかえさせていただきます。

昭和54年度 体育優良校・功労者の

表彰と表彰年次別状況

本会の主要な助成事業の一環として、毎年全国学校保健体育優良校ならびに全国保健体育功労者の表彰を行ってきたが、本年度の表彰は優良校が第29回、功労者が第9回目にあたり、去る11月21日の第18回全国学校体育研究大会（東京大会）の会場「普門館」における開会式に続いて表彰式を挙行政した。

被表彰者の推せんは年毎に増加し、本年度の表彰は、優良校107校、功労者108名の多きに至つた。表彰式には優良校校長と体育主任、功労者をお招きして、全国都道府県よりみえられた2600名余の大会参加者の見守る中で、それぞれ表彰状と優良校には楯、功労者にはバッヂが授与され、本会大石会長より、榮譽をたたえ、その労をねぎらったあいさつがあり、最後に被表彰者を代表として東京都藤野桜子氏より謝辞が述べられ、参会者一同感激のうちに閉会した。

ちなみに、今日に至る表彰年表をたどってみると次のとおりである。

◆ 全国保健体育優良校 ◆

| (回) | (年) | (小学校) | (中学校) | (高校) | (他) | (計) |
|------|-------|-------|-------|------|-----|-----|
| 第1回 | (昭26) | 13校 | 5校 | 2校 | 0校 | 20校 |
| 第2回 | (#27) | 16 | 8 | 4 | 0 | 28 |
| 第3回 | (#28) | 10 | 5 | 5 | 0 | 20 |
| 第4回 | (#29) | 12 | 3 | 4 | 0 | 19 |
| 第5回 | (#30) | 14 | 8 | 5 | 0 | 27 |
| 第6回 | (#31) | 17 | 11 | 6 | 0 | 34 |
| 第7回 | (#32) | 18 | 10 | 4 | 0 | 32 |
| 第8回 | (#33) | 19 | 14 | 4 | 0 | 37 |
| 第9回 | (#34) | 19 | 10 | 7 | 0 | 36 |
| 第10回 | (#35) | 21 | 13 | 7 | 0 | 41 |
| 第11回 | (#36) | 22 | 15 | 6 | 0 | 43 |
| 第12回 | (#37) | 23 | 17 | 8 | 0 | 48 |
| 第13回 | (#38) | 24 | 18 | 12 | 0 | 64 |

| | | | | | | |
|------|---------|-----|-----|-----|----|-------|
| 第14回 | (昭39) | 30校 | 18校 | 12校 | 0校 | 60校 |
| 第15回 | (" 40) | 30 | 15 | 14 | 0 | 59 |
| 第16回 | (" 41) | 27 | 20 | 9 | 0 | 56 |
| 第17回 | (" 42) | 30 | 24 | 11 | 0 | 65 |
| 第18回 | (" 43) | 32 | 20 | 14 | 0 | 66 |
| 第19回 | (" 44) | 30 | 20 | 13 | 1 | 64 |
| 第20回 | (" 45) | 30 | 18 | 8 | 0 | 56 |
| 第21回 | (" 46) | 27 | 18 | 13 | 0 | 58 |
| 第22回 | (" 47) | 27 | 18 | 13 | 0 | 58 |
| 第23回 | (" 48) | 27 | 23 | 10 | 0 | 60 |
| 第24回 | (" 49) | 36 | 19 | 10 | 0 | 65 |
| 第25回 | (" 50) | 37 | 22 | 12 | 0 | 71 |
| 第26回 | (" 51) | 38 | 19 | 15 | 0 | 72 |
| 第27回 | (" 52) | 46 | 27 | 21 | 0 | 94 |
| 第28回 | (" 53) | 51 | 24 | 22 | 0 | 97 |
| 第29回 | (" 54) | 53 | 33 | 21 | 0 | 107 |
| 総計 | | 789 | 475 | 292 | 1 | 1,557 |

❖ 全国保健体育功労者 ❖

| | | | | | | |
|-----|---------|-----|-----|-----|----|-----|
| 第1回 | (昭46) | 31名 | 33名 | 29名 | 2名 | 95名 |
| 第2回 | (" 47) | 20 | 20 | 16 | 1 | 57 |
| 第3回 | (" 48) | 20 | 18 | 15 | 1 | 54 |
| 第4回 | (" 49) | 24 | 25 | 13 | 3 | 65 |
| 第5回 | (" 50) | 29 | 25 | 21 | 3 | 78 |
| 第6回 | (" 51) | 30 | 30 | 23 | 6 | 89 |
| 第7回 | (" 52) | 34 | 30 | 30 | 9 | 103 |
| 第8回 | (" 53) | 39 | 36 | 33 | 2 | 110 |
| 第9回 | (" 54) | 38 | 38 | 26 | 6 | 108 |
| 総計 | | 265 | 255 | 206 | 33 | 759 |

以上でわかるように、本年度までに表彰された総数は、優良校が1,557校、功労者が759名に及んでいる。

(事務局 小 碓)

保健体育優良校表彰状を受けて

藤岡市立平井小学校長 佐藤 兵 彌

昭和54年11月21日、全国保健体育優良校として、日本学校体育研究連合会・文部省から栄誉この上ない表彰状と盾をお受けしました。それも全国107校を代表して壮厳な東京・立正佼成会普門館の壇上で、会長さん自らの手より渡され、静かな会場に大きな拍手の響きが聞こえたとき、ほんとうにもったいない気持がいっぱいでした。本校にとって開校以来かつてなかった喜びであり、その重みに相応する成果があつたか否か、全職員、保護者ともども想いを新たにして、過去の評価と反省を続けています。

本校ですすめてきた「ひとりひとりのたくましい体力づくり推進研究」は、極めて小さい研究実践に過ぎませんでした。生活、保健、教科体育、部活動などの指導、地域スポーツ活動の啓発等、研究が深まれば深まるほど、それに介在する困難さがわかつてきました。その継続推進に、この表彰を受けた誇りが大きな励ましになつて、全職員自らの士気がぐんとあがってきました。

職員が児童に投げかけた小さな課題にも、児童は敏感に反応を示しました。日に日に変容する子ども達に接するとき、われわれの微微たる実践活動でも熱意をもつて本気でやれば、子どもはたくましく育っていくものだとの自信と勇気がわいてきました。共に走り、共に跳ぶ子どもと教師、課題をもつて語る教師相互の人間関係、これをだいに進んできたのです。他校からの本校児童に対する評価がわずかでも高くなつたとき、これまでの苦勞も吹きとんだのでした。地域への広がり求めての体力づくりの中核にもなりました。

このたびの表彰を契機に、加えて、有意義な体育局長さん・会長さんのお話を身に体して、心新たに、皆さまのご期待にそうよう、児童・職員・地域住民相携えて、体力づくりに一層の精進をしたいと思ひます。

表 彰 を 受 け て

福岡市立城南中学校長 和 田 喜 久 蔵

第18回全国学校体育研究大会の開会式に引続いて行はれました本年度の全国保健体育優良校・並びに保健体育功勞者の表彰式において、功勞者として受賞の光榮に浴しましたことは、私の人生において忘れることの出来ない榮誉と感激の一瞬でした。

戦時下における体錬科体操の指導に始まり、戦後荒廢の中に生まれた新制中学校で、食糧難と体育施設・用具の不備・不足を克服しながら、次の世代を担う青少年の体位・体力・精神力の育成を目指して、パンツと裸足で泥と汗にまみれながら日の暮れるのを忘れて頑張つたことが、彷彿として頭の中に浮んできます。

今、静かに35年有余に亘る教師生活の足跡を振り返り、その人生の前半を保健体育指導の研究と実践に情熱を傾倒し、後半を研究会・研究発表大会等のお世話に微力を尽くしたことが、今日このような形で報いられたことは誠に喜しく「吾が人生に悔いなし」の感いで一杯です。

今度の新教育課程の方針は御承知の通り知育偏重を是正し「知徳体」の調和のとれた人間性豊かな児童・生徒の育成を目指す方向で改訂がなされました。このことを考えるとき今後学校体育に課せられた役割は益々重く、これが達成のため体育指導者は心を合せ、学校体育の研究および実践に向つて努力・貢献せねばならないと思ひます。尚残された教師生活をこの表彰に報いるべく、更に奮起し研鑽を積み学校体育振興のため余力の限りを尽くす覚悟でいます。

末筆ながら日本学校体育研究連合会の益々の御発展と、会員の皆様方の今後の御健闘と御多幸を祈念しつつ感謝の気持に代えさせていただきます。
(福岡県学校保健体育研究会長)

地方における研究活動の紹介

「発達段階に応じた効果的な学習指導」

(鳥取県学校体育研究連合会)

担当 中部地区

鳥取県学体連では去る11月27日(火) 第5回鳥取県学校体育研究大会を開催した。

昨年度末から数回の準備委員会を開き、本年度初めに正式に発表大会実行委員会を発足させ、発表大会に臨む体制を確立した。

本年度は県の中部地区で開催することとし、その中で未発表地区でしかも、小、中、高が比較的接近している河北地区が適当であるとの判断から、会場(授業会場)を河北小学校、河北中学校、倉吉高校とすることで一致した。授業者については、会場校と各校種毎の研究組織の話し合いに任せ、それぞれ二授業行うこととした。提案発表者は校種毎にそれぞれの分野に一名ずつとすることにした。

研究領域は、「球技」、「器械」、「表現」とし、校種毎の積み上げを持ち寄って共通の場での討議、研究という体制を可能な限りとることにして進めた。各会場校では授業者を中心に校内研究授業を度重ね、それに中部地区の会員が参加して盛り上がりを図った。

発表当日は、県下各地区から、小学校会員約100名、中学校会員約90名、高校会員約40名の参加を得て盛大に開催することができた。河北小学校では1年基本の運動、5年ボール運動の二授業(どちらも女教師指導)、河北中学校では2年器械運動、1年ダンス(ダンスは女教師指導)、倉吉産高では2年球技、1年器械運動の公開授業を行った。

引き続き全員が会場を県福祉文化会館に移動し、昼食、休憩の後、球技、器械、表現の三分科会を構成し討議・研究を行った。

各分科会とも、指導助言者に、県教育委員会体育保健課の指導主事と国立鳥取大学教育学部の体育担当の先生をお願いし、各公開授業についての研究、討議、それに各校種毎から一名ずつの提案発表を柱として、活発な話し合いを行った。県下の小・中・高の現場指導者が一堂に会して、共通のテーマで実践例や悩み等を話し合う機会はそう多くあることではないので、各分科会とも時間を延長して話し合う程であった。この中で小学校の指導者としては、中、高の体育専科教員としての深みある指導、一時間一時間にかける情熱のほとばしりに共感し、また、中、高の側からは小学校における学級担任制の中での体育指導の困難点、工夫点に認識をあらたにできたように思う。そして更に今後は従前にも増して、校種間の連携を密にし、共通のテーマに基いて平素から理論研究・実践研究を積み重ねて行くことの重要性を再確認した。

その中でも特に、女教師の多い小学校において、殆どの教師が学級担任として体育授業を行っているにもかかわらず、研究会員の数がきわめて少いこと、ひいては、女子体育連盟への加入者が少いこと等の問題は、今後の本県体育指導の充実発展のために早急に解決を図らねばならない緊急課題として浮き彫りされたことは忘れてはならないことだと思う。

最後に、鳥根大学名誉教授から「スポーツ遍歴50年」という演題でご講演をいただいたが、先生の輝かしいスポーツ歴を通した、苦心談、痛快談はとても面白く、参加者一同に強烈な印象を与えた。さらに先生の現在の立場が学生指導のほかに鳥根国体の選手強化別本部長ということで、鳥根国体の数年後「鳥取国体」を迎える本県にとっては、非常に参考になり得る所が多かった。準備委員会の発足から、実行委員会の組織づくり、授業者、発表者の決定、当日の運営全般に亘って、小、中、高が一体となつて取り組んだ成果をこの場限りにしないで、三年後の大会に向けて今から再出発したいとひそかに期している次第である。

事務局からのお願い

● 加盟分担金の納入について

去る11月5日付文書をもって、加盟団体会長宛お願いいたしました。現在分担金未納県がございます。

年度末をひかえ、会計処理上支障いたしますので、未納県におきましては、至急ご納入くださるようお願いいたします。

● 会長等変更届出について

各都道府県の本会加盟団体に関し、次のような変更のあった場合は、至急学体連本部事務局へお届けください。

- | | |
|-----------------------|----------------------------|
| 1. 会長変更の場合 | 3. 事務局・担当者変更の場合 |
| (1) 新会長氏名 | (1) 事務局所在地・名称および電話番号 |
| (2) 勤務先および職名 | (2) 事務局長等担当責任者名 |
| (3) 勤務先所在地および電話番号 | 4. その他 |
| (4) 会長ご自宅住所および電話番号 | 各都道府県加盟団体と本部との連絡上必要と思われる事項 |
| 2. 会長勤務先変更の場合(転任等により) | |
| 上記(2),(3)による。 | |

● 学体連評議員の変更について

学体連の評議員は、全国都道府県加盟団体の推せんを経て、各都道府県1名以上(寄附行為に基づく定数)の就任をいただいております。

この場合も、会長の変更届に準じてご連絡くださるようお願いいたします。本部としてはそれを受けて所定の手続きをいたします。

昭和54年度賛助会員入会状況(昭和55年2月20日現在)

本年度も各方面のご理解とご協力により、予期以上のご入会をいただきました。改めて謝意を表し現況をお知らせいたします。

| | |
|-------------------------|-------------------|
| I 特別賛助会員(年会費10万円および寄附金) | III 個人賛助会員 |
| 4社 | 年 会 員(年会費3千円) 14名 |
| 1団体 | 終身会員(終身会費3万円) 8名 |
| II 普通賛助会員(年会費1口1万円以上) | |
| 10万円口 1件 | |
| 5万円口 8 " | |
| 1万円口 113 " | |

編 集 後 記

○本年度第2回目の会報第5号を発行することになりました。今回は主として昨年11月開催した第18回全国学校体育研究大会と本年度の表彰についてご報告すべく編集しました。なお、本号から地方における研究活動をご紹介したいと、鳥取県学体連の研究発表大会について貴重なご報告をいただきました。

○学体連本部では、新年度の事業計画や予算編成のため、検討を進めております。何れ全国評議員会・理事会にお諮りして、ご承認いただくこととなりますが、評議員会・理事会は4月26日(土)を予定しています。

○最近東京にも雪が降り、厳しい寒さですが、窓外に見る代々木の森には、春のけはいを覚えます。おわりに、加盟団体のご発展と会員各位のご健康をお祈りいたします。(事務局 小碓)